

令和4年度後期 学校・家庭生活についてのアンケート結果から

今年度、本校では学校教育目標を「『よき人生』を送る生徒の育成～自ら学び健康で心豊かな生徒の育成～」と定め、12月に行った生徒及び保護者の皆様によるアンケート結果を分析し、来年度生まれ変わる古川西小中学校に生かして改善するとともに、より充実した教育活動を進めるための具体的な方策を持って取り組んで参ります。

※「よくあてはまる」「あてはまる」を足した合計を肯定的回答としています。 (回答数 保護者117世帯中69名)

【評価指標】学校評価アンケート及び学校生活調査 肯定的回答90%以上

- ① 「楽しく学校生活を送っていると思いますか?」 (生徒95.6%, 保護者95.7%)
- ② 「授業を通して学習内容を理解していると思いますか?」 (生徒92.6%, 保護者79.7%)
- ③ 「思いやりの心をもって人と接することができますか?」 (生徒97.0%, 保護者95.7%)
- ④ 「学校行事や部活動を通して成長していると感じますか?」 (生徒91.1%, 保護者98.6%)
- ⑤ 「学校は、お便り・学校メール・西中ホームページなどで、学校からの連絡や生徒の様子を積極的に発信していると思いますか?」 (生徒92.4%, 保護者98.6%)

- ① 肯定的な回答が生徒は95.6%, 保護者95.7%でした。今後も、生徒の主体的な活動を第一に考え、授業や学校行事、部活動を進めて参りたいと思います。
- ② 92.6%の生徒が学習内容を理解しているという回答でしたが、保護者は79.7%と若干の開きが見られました。この結果から、生徒の学習に対する実感について保護者の方々が生徒のように感じ取れないのではないかと思います。この要因として、保護者の方々が家庭学習の取組についてお子さんにもう少し頑張してほしいという思いや、定期テストの結果等から判断されたのではないかと思います。今後も各教科で「キュービナ学習」を取り入れた基礎基本の定着や、話し合い活動やタブレット端末を活用した学び合いを通して更に分かる授業に取り組んで参ります。また、引き続き毎週水曜日の朝の活動では「読解力向上シート」に取り組み読解力の向上を目指していきます。また、来年度は、家庭学習の定着を課題としていきたいと思ひます。
- ③ 生徒、保護者ともに肯定的な意見で高い数値を示しました。学校行事や部活動、学級活動等を通して、ほとんどの生徒が仲間と良好な関係を築いています。その結果がこの高い数値につながっているのだと思ひます。しかし、生徒の中で数名が思いやりをもって接することができていないという回答でしたので、今後も学級で互いの良さを認め合うことで良好な人間関係づくりや居場所づくりに努めていきます。
- ④ 保護者は前回100%でしたが、今回は98.6%と若干下がりましたが、生徒は前回80%台だったのが91.2%と改善しました。西中フェスでは、見学に来ていた小学生に自分たちも「真似したい」と思わせるような気持ちのこもった取組ぶりでした。また、限られた時間の中で一人一人が効果的な練習方法を考えながら部活動に取り組む姿が見られました。このような体験が生徒一人一人の成長につながっているのだと思ひます。特に、部活動においては、「成果」より一人一人の「成長」に目を向けた指導をしていきます。
- ⑤ 生徒が92.4%, 保護者が98.6%と肯定的な数値が高い結果となりました。今後も生徒の活動や学校の動きについて情報発信を行っていきます。

【評価指標】学校評価アンケート 肯定的回答 50%以上

- ① 「家庭学習にしっかり取り組んでいますか?」 (生徒67.7%, 保護者62.3%)
- ② 「規則正しい生活(早寝・早起き・朝ご飯)ができていますか?」 (生徒79.4%, 保護者71%)
- ③ 「自分から明るく元気なあいさつができていますか?」 (生徒88.3%, 保護者81.3%)
- ④ 「学校の様子や出来事を話したり(お聞きになったり)、話し合ったりすることはありますか?」 (生徒78%, 保護者84.1%)

- ① 肯定的な回答の生徒は67.7%, 保護者が62.3%でした。生徒と保護者ともに約4割が家庭学習への取組に満足していないという点では前回と同じでしたが、今回は前回よりも生徒が3.2%, 保護者が5%上昇しています。微増ではありますが、家庭学習への意識が強くなってきているのだと思ひます。今後も、本校では、各教科や学年で生徒一人一人の「キュービナ学習」で基礎基本の定着や、家庭学習の継続的な取組を支援して参ります。ご家庭でも、家庭学習の習慣化のためにお声掛けをいただければと思ひます。また、家庭学習は人間関係

や、スマホの取扱い、ゲームなどの様々な要因がバランス良く絡み合ったときに習慣化されます。ご家庭で再度ルールを決めるなどのお話し合いをしていただければと思います。

- ② 肯定的な回答の生徒は79.4%、保護者は71%でした。生徒は前回よりも2.4%上昇していますが、保護者は5%下降しました。

大阪・堺市では「みんいく」と称して早寝早起きを推奨し取り組んだところ、学習改善につながったり、体調不良のお子さんが減ったりしているそうです。

一見簡単そうで、なかなか定着しない「早寝早起き朝ご飯」ですが、各ご家庭でお子さんと就寝時間について話し合いをされて、改めて生活改善に取り組まれると効果的なのではないかと思います。学校でもこれまで通り、養護教諭の保健便りや栄養教諭の給食便りをはじめ、様々な形で生徒に情報発信をしていきます。

- ③ 肯定的な回答の生徒は88.3%、保護者は81.3%でした。父母教師会の皆さんのご協力や生徒会の取組として、「おはようバード」の活動等であいさつ運動を行っておりますが、1割程度の生徒があいさつを自分からできていないと回答しています。季節の変化や日々の生活の忙しさ、悩み等により行動は変化していきます。タブレット端末での「相談フォーム」やスクールカウンセラーや「ぶらっとルーム」、そして全ての教職員が生徒のSOSを受け止められるように常に寄り添い、話に耳を傾けていきます。ご家庭でも気になることがありましたら、ご連絡いただければと思います。

- ④ 肯定的な回答の生徒は78%、保護者は84.1%でした。生徒の結果は前回とあまり変わりませんでした。保護者の回答は前回よりも7.9%下降しました。しかし、学校での生徒の様子を振り返りますと、教職員に親しみを込めて話し掛けたり、相談したりする生徒が日々の生活で当たり前な光景として見られます。これは、ご家庭で安心して話せる雰囲気をつくっていただいていることで、家族以外の大人を信頼することができているのではないかと思います。今後も、生徒と良好な関係を築いていき、安全、安心な学校づくりを進めます。

保護者の記述から

10 学校が教育活動を行う上で、特に力を入れてほしいと思うことは何ですか？ある場合には、ご記入ください。

ご意見1 学習について

- ・英語教育・英語(リスニングなど実戦で活かせるもの)・受験対策の勉強
- ・基礎学力アップ。タブレット任せはやめてほしい。個々の必要な基礎学力を持たせる対策
- ・グループでの課題の取組と発表など発展力に力を入れてほしいです。
- ・自主的な学習も大事ですが、遅れている子をそのままにしないでほしい。

回答 英語科では「デジタル教科書」を導入し、生徒が家庭でも発音練習や生の英語にふれることなど、主体的に学習できる環境を整えています。また、今後も継続して、授業でALTの生の英語に触れる機会を設けたり、グループ学習やペア学習等で英会話を実際に行ったりすることで、実戦で活かせる英語力を身に付けさせたいと考えています。

さらに、今年度から導入した「キュービナ学習」で基礎基本の補充問題の取り組みが定着してきています。生徒一人一人が自分の苦手な箇所を把握することで、家庭学習で何を勉強すればよいかという気付きを促しています。また、教科によっては、別室での個別支援を行ったり、休み時間や放課後に教えたりする機会を設けており、今後も継続して取り組んでいきたいと思っています。

ご意見2 生活面について

- ・コミュニケーション能力が身に付くとなお良いかと思っています。・生徒のコミュニケーション

回答 コミュニケーション力を身に付けるためには、集団の中で自己を見詰めながら、他者の思いを汲み取ることが大切です。そのためには、苦手なことにも自分なりに挑戦し、失敗しながら仲間とやり遂げることができたという達成感や、誰かに助けってもらってゴールまでたどり着くことができたという成就感が必要です。

そのために、本校では、学校行事や宿泊研修、部活動や総合的な学習の時間での様々な活動など、多くの体験活動を設けたり、全学年で障害理解学習をしたりしています。さらに、来年度は古川西小中学校になり、自分より下の子供たちの面倒を見るという体験をすることができます。これまでの体験に加え、誰かのために貢献することができたという自己有用感を持つこともできます。これらの点を生徒に味わわせていくことで、将来他者とのコミュニケーションが円滑にできる子供を育てていきたいと思っています。

11 学校では、保護者の皆様の考えを大切にしながら教育活動の向上を目指したいと考えています。建設的なご意見がある場合には、ご記入ください。

ご意見

- ・部活動も含めて、先生方にはとても一生懸命取り組んでいただき、とても感謝しています。
- ・様々な考えがある上で、いかに向上していくのか？学校側も保護者個々の意見を全て対応するのは大変です。形態は変わっても PTA 組織は必要と思います。
- ・いつも細やかで丁寧なご指導をしていただきありがとうございます。特に担任の先生や部活動の顧問の先生方には、たくさんの相談にのっていただいたり、アドバイスをいただき感謝しております。生活面も学習面も校長先生はじめ先生方のご指導のおかげで、意欲的に過ごせているように感じます。今後もご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、楽しく通えることが1番だと思いますので、このままサポートしてあげたいなと思っております。どうぞよろしく願いいたします。
- ・部活動の活動日程について、2週間ぶつつづけて登校する状況になった事がありました。土曜に参観日があったため日曜が部活になり、その場合翌週月曜に部活を休みにしますと言われても結果的に月曜から翌週末まで休みなしで学校へ行くこととなります。過去にもそのような日程を組まれ上の子が体調を崩した事がありました。大人でも14連動となるとつらいものがあります。適切な休養日は入れてほしいです。

回答 部活動の活動日程についてご意見ありがとうございました。部活動ガイドラインに従って、土日のいずれか1日は休みとし、平日5日のうち1日は休み、長期休業中の土・日の部活動はしないことを原則とし、今後、更に予定については生徒の負担等を考慮していきたいと思っております。

「行きたくなる学校アンケート」から（1回目7月、2回目1月実施）

先日、各学年で生徒に聞いてみたいテーマを決め「行きたくなる学校アンケート」を行いました。その結果をもとに各学年の教員で分析を行い、生徒にどのような学校生活を過ごさせたいか話し合いました。ご覧ください。

1学年 アンケートテーマ「学校は楽しいですか」

- 1 アンケート結果(前回 A 66.7% B 26.7% C 6.7% D 0%)
A 楽しい 88.6% B どちらかといえば楽しい 6.8%
C どちらかといえば楽しくない 4.5% D 楽しくない 0%

2 結果から

A, B合わせて95.5%と前回(7月)よりも1.9%上昇しました。この理由については、「小学校の頃よりも友達が増えた」「部活動や行事で成長を実感できた」という回答がありました。前回では見られなかった学校生活を通して楽しさを感じている部分がありました。

3 今後の取組

月ごとに学年テーマを設定し、学年集会で生徒の行動をテーマに基づいて評価してきました。今後も学校生活の様々な場面で、生徒の成長につなげられるよう、見通しを持った活動と適切な評価をしていきたいと思っております。また、学年委員会を中心に生徒主体の活動により、成長を実感できる取組も企画していきたいと思っております。

2学年 アンケートテーマ「みんなで何かをするのは楽しいですか」

- 1 アンケート結果(前回 A 76.9% B 20.5% C 2.6% D 0%)
A あてはまる 72.2% B どちらかというにあてはまる 25%
C どちらかというにあてはまらない 2.8% D あてはまらない0%

2 結果から

前回の調査(7月実施)では A, B 合わせて97.4%でしたが、今回も97.2%と高い評価でした。2学期は体育的西中フェスティバルや文化的西中フェスティバル、学年レクレーションなど、集団で活動する場面が多く、達成感につながったと思われます。

3 今後の取組

今後も、学年の生徒が楽しい機会を仲間と過ごせるように、生徒自身が中心となって学年レクを設定していきます。また、来年度は最上級生としてあらゆる場面でリーダーとして活動します。一人一人が活躍できるよう支援し、自信を持たせていきたいと思っております。

3学年 アンケートテーマ「授業に主体的に取り組んでいる」

I アンケート結果

「主体的に…」の捉え方が幅広く捉えることができるため、3学年では具体の行動6つについて、各4段階(A あてはまる B どちらかというにあてはまる C どちらかというにあてはまらない D あてはまらない)で自己評価アンケートを実施しました。7月と12月にアンケートを実施し、生徒一人一人の変容をまとめたものが次の一覧表です。

7月から12月 回答の変容

	予習を行っている。	授業中、挙手して発言している。	授業中、先生に質問して聞いている。	あきらめずに解こうとしている。	授業後、復習している。	進路選択を見据えて、学習に励んでいる。
-2	1	0	0	1	1	1
-1	7	8	9	3	3	2
±0	19	22	20	20	15	11
+1	8	8	6	10	15	19
+2	3	0	3	2	2	3
+3	0	0	0	2	2	2

「あきらめずに解こうとしている」「授業後、復習している」「進路選択を見据えて、学習に励んでいる」の3項目において改善が顕著でした。

「授業中、先生に質問して聞いている」の項目については、7月と12月で同程度の回答でしたが、始業前や休み時間、放課後には教科担任等に分からない問題の解説を依頼する姿がたくさん見られるようになりました。

「放課後に学習したい」「分からないところを教えてほしい」という生徒の声にこたえ、毎日、「放課後学習会」を実施してきました。設問が、「授業中」に限定していたためこのような数値ですが、授業以外についてもアンケートを実施することで更に違った実態を反映した回答になったと推察されます。

※一覧表にある「-2」～「+3」の数値は、例えばAさんが1回目「予習を行っている」に4段階のうちの「C」を付けていて、2回目に「A」を付けた場合、「+2」となります。

この例に沿って、一覧表をご覧ください。